

令和6年度 三田市障害者基幹相談支援センター事業報告

総括

基幹相談支援センターは三田市障害者総合相談窓口「きいてネット」の一員として障害者生活支援センター、精神障害者支援センター、就業支援センターと協働し地域の中核的な相談機関を担っている。

今年度新たな取り組みとして、これまで三田市においても継続した課題であった強度行動障害者に対応できる事業所や社会資源が乏しいといった問題について取り組んだ。障害者基幹相談支援センターは地域生活支援拠点事業等コーディネート事業として緊急時の受け入れ・対応・自立へ向けての体験の機会や場の確保、専門的な対応ができる人材の確保や養成、また地域全体の「支援力」を底上げする役割を担っているため、三田市の強度行動障害者の専門的人材の育成や新たな社会資源の開発に向けて「強度行動障害者支援事業所連絡会」を実施した。

また、初めて三田市地域自立支援協議会の4つの連絡会（相談支援事業所連絡会、ヘルパー事業所連絡会、地域移行連絡会、医療的ケア児等支援連絡会）の合同研修と交流会を開催し、互いの連絡会の取り組みについて理解が深められるような機会を設けた。

1. 総合的・専門的な相談の実施（令和6年度12月末）

「きいてネット」内の4つの事業所がそれぞれの専門性を活かしながらワンストップで幅広い年代、障害に関する様々な相談に対応した。若年層やひきこもりの相談も増えている。

ひきこもりの相談件数は前年度から引き続きケースも含めて「きいてネット」全体で38件となっている。ひきこもりの支援としては「きいてネット」が開所した8年前から継続しているケースもあり支援は長期にわたる。その中で今年度はひきこもり状態から何らかのサービスや就労につながったケースが7件あり、引き続き支援を継続している。

(1) 相談支援を利用している障害者等の実人数

(単位：件)

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	合計
障害者	15	10	60	79	14	9	6	21	214
障害児	0	3	5	2	6	0	0	0	16
									230

(2) 支援方法

(単位：件)

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	合計
113	133	30	446	96	38	647	1503

(3) 支援内容 (重複あり)

(単位：件)

福祉サービスの利用に関する支援	478
障害・病状の理解に関する支援	85
健康・医療に関する支援	276
不安の解消・情緒安定に関する支援	288
保育・教育に関する支援	9
家族関係・人間関係に関する支援	131
家計・経済に関する支援	128
生活技術に関する支援	43
就労に関する支援	70
社会参加・余暇活動に関する支援	74
権利擁護に関する支援	19
障害者虐待に関する支援	9
障害者差別に関する支援	125
自立生活・地域移行に関する支援	243
合計	1,978

2. 相談支援体制の強化

(1) 相談支援専門員研修の実施、専門的な指導、助言

月1回の相談支援事業所連絡会や相談支援専門員研修などの定期的な機会を設け、相談支援専門員の質の担保を目的とした内容を実施した。また1事業所では対応困難なケースは基幹相談支援センターが相談支援専門員と協働し、ケースの相談対応や個別支援会議への出席、同行などを行った。

○相談支援専門員研修

開催日	項目	参加人数
4月17日	「セルフケア研修 ストレスと上手に付き合う方法①」 講師：公認心理士 ブラウン恵美氏	14名
6月19日	「セルフケア研修 ストレスと上手に付き合う方法②」 講師：公認心理士 ブラウン恵美氏	11名
12月6日	相談支援専門員・介護支援専門員合同研修会 主催：基幹相談支援センター・精神障害者支援センター、藍包括支援センター	31名
3月19日 (予定)	「サービス等利用計画作成のポイント・加算の記録について」	

(2) 人材確保・人材育成の取り組み

項目	回数
兵庫県相談支援従事者初任者研修講師	5回
兵庫県相談支援従事者初任者・サビ管 合同研修講義 「三田市の相談支援体制と自立支援協議会について」	動画収録
兵庫県障害福祉人材育成検討・人材育成ビジョン策定会議	7回
社会福祉士ソーシャルワーク実習指導（神戸女子大学）	8日間（60時間）
法人間連携「みぢかいご」会議・福祉の魅力発信の取り組み ハニーFMにて総合相談窓口きいてネットの紹介	8回

(3) 地域相談機関・支援者との連携・協力体制の構築・強化

相談者の問題が複雑化しており、相談支援専門員にも幅広い知識が求められる。また他の関係機関との連携が欠かせない中で、これまでケースや会議・連絡会等の参加を通して様々な機関との関係が構築されてきたことが活かされていると感じる。市内・圏域等の連絡会等に参加し、情報共有と連携強化を図った。

	項目	回数
市	さんだ子どもネット	2か月毎
	さんだ子どもネット課題部会	〃
	ヘルパー事業所連絡会	〃
	地域移行連絡会	〃
	教育相談	11回
	藍包括支援センター連携会議	5回
	教育相談支援チーム連絡会	3か月毎
	市立学校における医療的ケア運営協議会	1回
	地域福祉計画審議会	1回
	地域福祉協働推進ネットワーク	1回
	三田市権利擁護・成年後見ネットワーク協議会	1回
	生活困窮自立支援事業支援調整会議	1回
	藍包括支援センター連携会議	5回
阪神北圏域	相談支援専門員定例連絡会	毎月
	主任相談支援専門員定例連絡会	毎月
阪神圏域	医療的ケア児等コーディネーター連絡会	3か月毎
	西宮市障害者介護給付費等審査会 委員	3か月毎
	ひきこもり・不登校支援ネットワーク会議	1回
県	市町基幹相談支援センター連絡会	2回
	市町医療的ケア児等コーディネーター連絡会	1回
	地域移行・地域定着支援推進連絡会議	1回

3. 障害者差別解消のための取り組み

令和6年4月から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことにより、市内の企業と福祉的就労事業所を対象に研修を行った。市産業政策課、障害福祉課を通して市内の企業へ周知したものの、企業の参加が少なく課題が残ったが、参加者からは「障害者に優しい事業所になっていきたい」「今後も福祉の事業所と企業が交流できる機会をもってほしい」という声が聞かれた。

開催日	項目	参加人数
2月17日	・「合理的配慮とは？」を学ぶ研修会～共生社会の実現を目指して～ 講師：神戸女子大学 植戸 貴子教授 ・障害者就業支援センター ビーズの紹介 講師：びーず田村氏	31名 ※企業8名、就労事業所13名、行政3名、安心サポート1名、きいてネット5名、実習生1名

4. 障害者等に対する虐待を防止するための取り組み

障害者虐待相談ダイヤルを基幹相談支援センターに設置し、24時間連絡の取れる体制を整えた。虐待防止の取り組みとして、支援者や障害のある当事者を対象とした研修を行い相談窓口の周知を行った。

○ 当事者・支援者対象の研修（5回）

市内の通所事業所とへ出張し、グループワークや市民劇団による寸劇を通して虐待とはどういうことか、虐待かもしれないと思ったらどうするかを分かりやすく伝えるように試みた。障害者自身に正しく理解してもらい声をあげて周囲に伝えられるようになる、そして障害者からの声が職員の意識を変えていくことで虐待を防止することを目的とした。

開催日	場所
6月3日	アイクロッソ（就労継続支援B型）
12月2日	三田わくわく村すずかけ台事業所（自立訓練・就労継続支援B型）
12月3日	三田わくわく村大原事業所（生活介護）
1月27日	三田わくわく村志手原事業所（就労移行）
2月20日	三田わくわく村本町事業所（就労継続支援B型）

5. 地域生活支援拠点等の運営

障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域生活において障害者やその家族などの緊急に対応を図るものとして、基幹相談支援センターは24時間の相談対応、緊急時の受け入れ・対応の機能を担い、今年度の対応実績は4件であった。

福祉サービス以外の緊急の受け入れ先や居場所が少ないとの課題について、昨年度NPO法人に協力を依頼して受け入れ体制を整備している段階であったがNPO法人が三田市内から撤退したことで緊急の受け入れ先の整備には至らず今後も課題となって

いる。

その中で強度行動障害者の事業所の受け入れが困難であったり、社会資源が乏しいという課題がある。専門的な対応ができる人材の確保や養成、また地域全体の「支援力」の底上げを図るため、今年度より市内の5法人の事業所を対象に「強度行動障害者支援事業所連絡会」を毎月開催し、事例検討を行った。

○ 強度行動障害者支援事業所連絡会

講師：プロップにしのみや 熊倉真二氏

場所：総合福祉保健センター

開催日	項目	参加人数
8月22日	講義「強度行動障害のある方への支援」 講師：合同会社オフィスぼん 真船亮氏	22名（5法人）
9月26日	実践報告：三田わくわく村 2事例	22名（5法人）
10月24日	実践報告：こぶしの園、中央デイサービス	22名（5法人）
11月28日	実践報告：東山荘 2事例	20名（5法人）
12月22日	支援経過報告：三田わくわく村 事例報告：のぞみ作業所	17名（4法人）
1月23日	支援経過報告：三田わくわく村 振り返り・講義	15名（4法人）
2月27日	支援経過報告：こぶしの園、中央デイサービス	15名（4法人）
3月13日(予定)		

6. ペアレントトレーニング「かんがるー教室」 実施 場所：総合福祉保健センター

今年度より、発達に心配のある就学前から小学低学年の保護者を対象にペアレントトレーニングを実施した。ひょうご発達障害者支援センタークローバーのプログラムに沿って家庭での子どもとのかかわり方について学び、参加者からは「子どものいろいろな成長を感じられ自分も成長できた」「お母さん同士のつながりが出来た」という感想が聞かれた。

開催日	項目	参加人数
5月17日～ 7月12日 (全6回)	講師：クローバー宝塚ランチ清水氏、UTキッズさんだ 岩城氏・堀氏・障害者生活支援センター大前氏	6名
10月11日～ 12月13日 (全6回)	講師：クローバー宝塚ランチ清水氏、UTキッズさんだ 岩城氏・堀氏・障害者生活支援センター大前氏、他スタッフ1名	6名

7. 地域の居場所「ゆるり」（6回開催）

障害の有無に関係なく誰もが参加できる地域の居場所として偶数月に1回金曜日に開催、食材はパスカルさんだより提供していただく機会もある。参加者からは「皆でご飯を作って食べられるのが楽しい」という声が多く、カードゲームを楽しんだりギター

演奏など得意なことを活かせる場にもなっている。長年引きこもり状態にあった方が家から出るきっかけにもなった。

・場所：総合福祉保健センター栄養指導室

・主催：基幹相談支援センター、精神障害者支援センター、就労継続 B 型アイクロッソ

8. 障害の理解・啓発

(1) 社会資源マップづくり、街歩きイベント

車いすを使用している当事者と関西学院大学ボランティアサークル「エコハビ」と福祉関係者が「Wheelog」というスマートフォンアプリを使って「お互いが助け合える仕組みづくり」を行っている。基幹としてもこの活動に賛同し誰もが暮らしやすい三田を目指して街歩き、啓発イベント、啓発、会議等を行った。

(2) パラスポーツ「ポッチャであそぼう！」

障害者スポーツを通して共生社会を目指す関西学院大学生が企画した「ポッチャであそぼう！」のイベントに協力して実施した。

開催日	場所	参加人数
7月31日	総合福祉保健センター	12名
11月30日	総合福祉保健センター	16名
2月23日	神戸農村環境改善センター	43名 ※さんだパラスポーツの会との共催

(3) 「障害者の生涯学習推進にかかる会」

今年度より、神戸大学津田教授の呼びかけにより参加。障害のある人たちの学びの場について関係機関と情報共有、意見交換を行った。

9. 研修

(1) 講師派遣

開催日	項目	主催
6月6日	NPO 法人ネットワークゆう 総会 障害福祉サービスについての勉強会	作業所ゆう
9月12.13日	全国グループホーム等研修会近畿地区大会 in 兵庫 分科会コーディネーター	兵庫県知的障害者施設協会
12月5日	兵庫県地域生活理解促進事業「みんなで話そう わたしたちの未来」講義・ビデオ視聴	ひょうかれん 三田市にじの会

(2) 研修参加

開催日	項目	主催
11月30日	阪神地区精神保健福祉研修会	ひょうかれん
12月1日	「誰でも参加できる SST」研修	兵庫 SST 研究会